

丹沢ボラネット瓦版

2012 年 2 月号 No.81

ボラネット交流会が開催されました

2011 年 10 月 29 日(土) 自然環境保全センターにおいて、「ボランティアによる生態調査及び外来種駆除活動体験」をテーマに交流会が開催されました。

交流会は、丹沢地域でボランティアによる保全活動を実施している団体間の交流をとおし、相互の連携による活動の多様化を促すとともに、保全活動への県民理解や参加を促すことを目的として、平成 21 年度の「ヤマビル」平成 22 年度の「里山活動」につづき開催されました。

○野外施設池再生隊

講師に水産技術センター内水面試験場の勝呂主任研究員を迎え、NPO 法人神奈川ウォーター・ネットワークの住倉さんのリードによりセンター自然観察園の池で魚類等の生態調査を行いました。参加者数名があらかじめ排水しておいた池に入り、魚類を網で捕獲しました。捕獲した魚類は、種類ごとに分類し、一部を計測・記録しました(データは後日報告書に掲載予定)。計測・記録後、池の生物多様性確保及び外来生物駆除のため、コイ 4 匹及びブルーギルは野生動物保護棟などで処理されました。それ以外の魚類は別の池に放流しました。



胴長を着ての捕獲状況



勝呂主任研究員状況を中心に選別

昼食時には、あらかじめ捕獲しておいたアメリカザリガニを素揚げや塩茹、味噌汁にして試食しました。素揚げしたものを熱いうちに塩をまぶしたものが好評でした。



捕獲されたコイ



素揚げしたアメリカザリガニ

午後からは意見交換を行い、①植生保護のために設置したシカ柵がアメリカザリガニを捕食している小中動物の出入りを阻害した可能性や②池へ流入する沢のホトケドジョウの生息状況から駆除作業の継続の必要性への言及がありました。

最後に勝呂主任研究員から、次のとおり生態調査結果の概要が報告されました。

種類	個体数	種類	個体数
モツゴ(都市河川)	500	アメリカザリガニ	500
メダカ	多数	コイ(水生昆虫への影響大)	4
キンブナ	50		

・ トウヨシノボリ(陸封のハゼ)やブルーギル、イシガメも確認された。水生昆虫は少なかった。

また、今後池や沢をどのように管理すればいいか、たとえば「本来の谷戸の環境指標となるアブラハヤやホトケドジョウの再生・保全に重点を置く管理を行う」といったビジョンを策定すべきで所内で検討してほしいし、引き続き協力するとの話がありました。



記念撮影

(世話人代表: 杉山 勉)

今年度のネット巻きは中止となりました

平成 23 年 9 月 24 日(土)に計画しました天王寺尾根における既設防護ネットの補修・交換については、台風 15 号により、アプローチとなる塩水林道の路面荒廃によりマイクロバスの運行が困難なため中止となりました。



ネットが外れたモミ



いたる所で路面が洗掘されました

北丹沢「青根地域活動報告会」が開催されました

平成 23 年 10 月 2 日（日）に相模原市緑区青根に於いて、北丹沢「青根地域活動報告会」が開催されました。



青根緑の休暇村
の会場にて

平成 23 年 10 月 2 日（日）に相模原市緑区青根に於いて、北丹沢「青根地域活動報告会」が開催されました。この呼びかけは、地元を中心に活動する NPO 北丹沢山岳センターが主催するシンポジウムにより行われました。

当日は、日本大学・糸長浩司教授の基調報告及び相模原緑区高部博区長の挨拶に続き、パネルディスカッションが行われました。

パネラーとして青根地域振興協議会会長関戸基法氏、青根振興協議会理事長天野真一氏、このま沢キャンプ場社長井上勝夫氏、青根婦人会会長中島ケイ子氏、神ノ川ヒュッテ後援会会長加藤博恵氏と NPO 北丹沢山岳センター理事長杉本憲昭氏の司会で3時間にわたり休憩なしで熱心なディスカッションが行われました。

会場はいやしの湯関係者、青根地域振興協議会の役員関係者、社会福祉法人青芳会・青芳苑の施設長、神奈川県自然環境保全センター、丹沢大山自然再生委員会、相模原市職員と NPO 北丹沢山岳センターの関係者が参加しました。

主題の青根地域における環境活動や村の再生事業、北丹沢の自然と調和する町づくり等今後の活動が話し合われました。

まとめとして糸永教授よりバス路線等地域の観光、住民の足の確保、自然を利用した産業（農業）の掘り起こし、東北震災地域との交流を通じて青根地域の活性化につなげることができるのではないかと話がありました。

（北丹沢山岳センター）

～高校生が取り組む！～「丹沢やまみち再生体験」

3回目となる高校生再生体験が1月29日(日)大倉尾根一本松ベンチ上部で、高校7校・40名(女子1名)の登山部生徒が参加して登山道補修活動に取り組みました。

戦後の登山ブームに加え、首都圏から近い山岳地帯である丹沢の大倉尾根には多くの登山者が集中した結果、表土が流失しU字・V字型の地形が至る所で見る事が出来ます。特に冬季の傾斜が緩い登山道ではヌカミが発生する箇所が多く、登山靴の汚れを避けて登山道以外に踏み込む登山者が多く見られ、登山道の複線化が進んでいます。



岩礫運搬 一輪車と背負子など

みろく山の会ではヌカミ対策として各種試行を繰り返してきた結果、昨年からの岩礫を敷設する工法を他の団体活動に参加して学び、大倉尾根で4ヶ所実施した結果ヌカミ防止に有効であることが確認できました。ただし、ヌカミ対策では多くの岩礫を使用することで、その運搬に多くの労力が必要となります。

一回目及び二回目の体験学習は水切り作業がメインで、一度に多くの生徒が加わる事が出来ないことから手待ちの生徒が多くなる点が問題でしたが、今回のヌカミ対策では一人5Kg～10kgの岩礫を短時間で運ぶ必要があり、作業開始から終了まで過半数の生徒と若い先生によって当初の目標である400kgを超す量を運搬出来たことは予想外の成果でした。



岩礫運搬説明



女子部員も背負子で

作業は1時間ほどで終了。ヌカミ対策が出来た登山道は12mでしたが、若い高校生が取り組む体験学習を目にした多くの登山者から「何をしているの」と聞かれ、主旨を説明すると「ありがとう」「ご苦労様」の感謝の言葉がたくさん寄せられたことは体験学習とボランティア活動に対する評価が十分に得られたものと確信しています。



僕らも参加したいなあー



岩礫敷設

作業後、来年もよろしくと高体連登山部井上先生から声を掛けられました。参加した高校生が10年・20年後丹沢に来たとき、この水切りやヌカミ対策を見て、自分たちが高校生時代に取り組んだものだと思いだせるような体験学習が出来ればと元高校生の年長者が計画と準備をしておきます。



活動終了後の記念撮影

(NPO 法人みろく山の会 鈴木 茂)

平成 24 年度ボラネット総会の日程がきました

平成 24 年度のボラネット総会日時が次のとおり決まりましたので、大勢の皆様の参加をお待ちしてます。なお、事業計画案など詳細は3月7日(水)の世話人会で協議します。

日時:平成 24 年 4 月 7 日(土)13:00～

場所:自然環境保全センターレクチャールーム

内容:総会及び活動報告会ほか、講演など検討中

ボラネット団体等の行事案内

★ 丹沢ドン会

発足 20 周年記念イベント(神奈川新聞 2 月 2 日付けに掲載されました)

日時: 2 月 25 日(土) 13:00~17:00

場所: 五十嵐商店倉庫(秦野市栄町 2-4-9)

問い合わせ先: ホームページ(www.donkai.com/)

★ 足柄丹沢の郷ネットワーク

2 月に「森の健康診断」を山北町で行います。今回から人工林の混み具合と植生調査の他に、新たな取り組みとして「地表性甲虫を用いた環境評価」を行うことに致しました。調査方法は、ピットフォールトラップ法を用います。期待できる成果としては、人工林分における基礎的な甲虫相および植生の甲虫相の相互関係の把握。将来的には、甲虫相の経年変化や広域の分布調査にも活用でき、生物多様性の保護に寄与できると考えています。

問い合わせ先: ホームページ(www.ashitan.net)

★ 北丹沢山岳センター

「北丹沢の開拓に尽くされた先駆者を偲ぶ会」

日時: 3 月 18 日(日) 10 時から

場所: 長昌寺(相模原市緑区青根)

「北丹沢神の川流域山開き」

日時: 4 月 15 日(日) 8 時 30 分から

場所: 折花神社(相模原市緑区青根)

「白旗史朗氏と軍刀利神社保全活動」

日時: 4 月 19 日(木)(時間及び場所は後日)

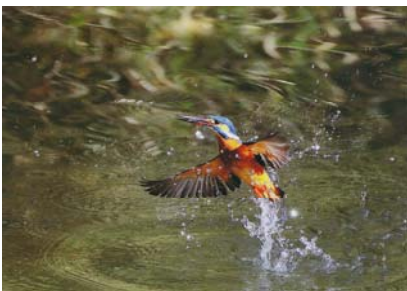
問い合わせ先: TEL042-687-4011

★ 自然環境保全センター企画展

「自然環境保全センターの豊かな自然写真展」

実施期間: 1 月 8 日(日)~3 月 25 日(日)

場所: 自然環境保全センター 2 階ブナの森ギャラリー



★ お問合せ・連絡先(協働編集事務局)

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 大木伸一

〒243-0121 厚木市七沢 657

電話: 046-248-6682 FAX: 046-248-2560 e-mail: ohki.baik@pref.kanagawa.jp

丹沢ボラネット瓦版 2012 年 2 月号(通巻 81 号) 2 月 15 日発行
丹沢大山ボランティアネットワーク(世話人代表 杉山勉)